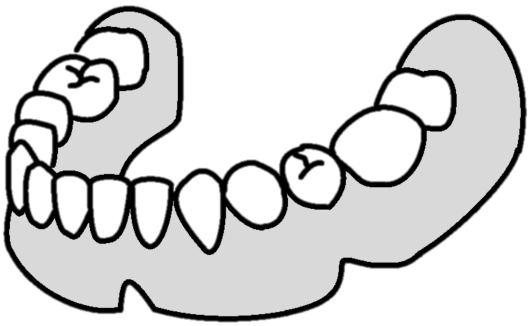
入れ歯のお話

～食を生きる楽しみにするために～



丹野歯科医院　平野光恵

はじめに

先生、私は将来入れ歯になってしまうのでしょうか？」

「入れ歯にならないようにしたいんです」

患者さまからたまにこんな質問を受けます。

「入れ歯」に対する患者さまのイメージはあまり良いものではないようです。

もちろん、一生自分の歯で好きなものを食べられるのが理想です。どんなに素晴らしい治療でも、自分の歯にかなうものはありません。

しかし、健康な歯のまま過ごせる方は多くありません。

年を重ねるにつれて、虫歯や歯周病で歯を失い困っている方が増えてくるのが現状です。

私は、そんな方に少しでも好きなものを食べられるように希望を叶えるお手伝いができたらなと思っています。

遅くなりましたが、簡単な私の自己紹介をさせていただきます。

私は、物心ついたときには、日本女子大学附属豊明幼稚園・小学校に在籍しておりました。創立者、成瀬仁蔵先生の三つの教え、信念徹底・自発創生・共同奉仕が、歯科医師になった今でも私の座右の銘でございます。

大学では、英米文学を専攻しておりました。より、グローバルな世界を体験したいという思いから、総合商社である、三菱商事で働いていた経験もございます。

しかし、小さい頃から父の背中を見て育ってまいりましたので、やはり歯科医師になる夢も諦めきれず、一念発起して歯科大学へ二十四才の時に入学致しました。

大学院を含めると十年間、充実した学生生活を送ることができ、歯科医師として生きていける喜びを感じながら、実家であります丹野歯科医院に戻ってまいりました。

歯科は生命に関わる医療ではありません。しかし、しっかり歯で食べ物を咀嚼し、飲み込む機能が低下すれば、健康に害が及ぶのはお分かりだと思います。

また、**毎日おいしいご飯を楽しく食べるということは、生活の質を向上させ、生きる楽しみを見出すことができる**と考えられます。

そのための選択肢の一つとして、入れ歯があります。

現在の歯科医療では、歯を失くした部位への治療として、インプラント治療が挙げられます。インプラント治療も、正しい診査・診断のもとに治療が行われれば、とても良い治療だと思います。実際に当院でも、少数歯欠損であれば行っています。

それでも、**やはり外科的処置に抵抗がある方や、基礎疾患をお持ちでインプラント治療を受けられない方、高齢の方は入れ歯治療を選択される方が多いのも現状**です。

ではなぜ当院では、入れ歯を専門に行っているのか、医院の歴史も交えてお話したいと思います。

丹野歯科医院は、今から約七十年前に私の祖父が開業致し、今では理事長をしています。院長としては、私で三代目になります。

開業当時から、西日暮里の地に根付いた医療を提供してまいりました。父が医院を引き継いだころまでは、このあたりに歯科医院は当院しかなく、患者さんは待合室に入り切れないほどだったそうです。

そのころから当院には技工士が常勤しており、父と二人三脚でたくさんの入れ歯を作ってきました。当時はインプラントも普及していなかったですし、また父は咬合の勉強を専門にしておりましたので、入れ歯治療には定評がありました。

私が父から当院を引き継いだ際にも、引き継き入れ歯の患者さんが多かったので、父から入れ歯に関してしっかり学びました。また他の義歯の勉強会にも参加することで自分でも義歯の知識を学び、現在に至ります。

ただ、義歯の治療は奥が深く、父は自院の技工士が常勤しておりましたので、常にお互い相談しながら治療を進めることができていました。ところが、その技工士は私が生まれる前から当院に勤務してくれていたので、三年前に高齢のため退職せざる得なくなったのです。

そこで**「これからも技工士と協力して治療を進めたい」**という思いから、私もいろいろな技工士さんを探して、現在、義歯でお世話になっている近藤義歯研究所さんに出会うことができました。

現在、当院でお薦めしているのは、保険適用外の入れ歯治療です。

「保険でも良い入れ歯は作れないの？」

とよく質問されることもあります。というのも保険の入れ歯より経費はかなり高額になるので、その点に疑問をもたれる方は少なくないからです。

では、**「なぜそこまで高くなってしまうのか」**についてお話ししたいと思います。

入れ歯でお困りの方はほとんど、今使っている義歯の形が悪かったり、顎の位置がずれたりしています。

保険内の治療では、使う材料だけでなく、入れ歯を作る方法まで決まっているので、患者さんのオーダーにすべて対応するのは難しいです。

保険で入れ歯を入れるということは、**「とりあえず入れ歯を入れてみる」**というとらえ方が近いです。

もちろん、保険の入れ歯であっても最大限調整させていただいて、ある程度使ってもらえる入れ歯にはなるかもしれません。

しかし、**外れることの無く、動かない・硬いものは何でも食べられるという入れ歯を作るためには、オーダーメイドの保険外の入れ歯**が最適です。

仮に、保険の入れ歯だけど何でも食べられるよ」という方がいらっしゃったら、その方はよっぽど残っている顎の骨がしっかりしていらっしゃるのだと思います。

当院でお薦めするBPSデンチャーを含めた入れ歯は、顎の型採りをするトレー一つ一つから患者さん固有のものを作り、型採りする材料、石こう全てにこだわりを持って製作させて頂いております。

先ほどもお話しさせていただいた通り、治療の際には技工士が同席させていただき、石こう模型からでは伝えきれない、**治療に必要なお客様のお口の情報をその場で共有し、治療に生かしていきます。**そして、最終義歯を入れる前に、ある程度の期間、リハビリデンチャーを入れていただきます。

リハビリデンチャーという言葉をご存知でしょうか。足や腕を骨折した後に、普通リハビリをしますよね？

顎のまわりにもたくさん筋肉があって、お食事をするとき、お話をするときは、顎の関節、上下の顎の骨、お口の周りのたくさんの筋肉が連動しています。

ですから、顎の動きをスムーズにするために、リハビリデンチャーを使っていただき、治療期間を設けて、そのあとに最終義歯を入れさせていただきます。

このように、**製作後も患者さまに合わせた治療ができるのがオーダーメイドの入れ歯の魅力**なのです。

保険内の入れ歯に比べると少し時間はかかってしまいます。**「ご自身の歯があった時のお食事をした時の喜びを少しでも復活させたい」**と思っていらっしゃるのであれば、私共どもでそのお手伝いをさせていただきたいと思っております。

ただ、治療の方法がここまで細かく精密になっておりますので、少し経費がかかってしまいます。ここまで長い文章にお付き合いいただき本当にありがとうございます。

お口の健康のため、Quality of lifeのため、少しでもご興味のある方は是非当院までご相談ください。

また、年二回春と秋には近藤義歯研究所の技工士同席のもと、義歯相談会というイベントもさせていただいております。歯科医と技工士と患者様で、入れ歯に関するお悩みを個室で個別にゆっくりお伺いすることができる機会です。是非、ご参加ください！

≪著者紹介≫

丹野歯科院長

平 野　光 恵

■略歴

平成4年　日本女子大学文学部英文学科卒業
平成4～5年　三菱商事勤務
平成13年　東京歯科大学歯学部　卒業
平成17年　東京歯科大学大学院　卒業
平成26年　丹野歯科医院院長に就任

■主な所属

・日本歯周病学会　会員
・荒川区学校歯科医
・東京SJCD 会員

■診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00-13:00	●	●	●	●	●	●	—
14:00-18:00	●	●	●	●	●	—	—

※土曜日は10時～14時まで

■入れ歯専門サイト

↑QRコードからアクセス↑

丹野歯科医院

TANNO DENTAL CLINIC

東京都荒川区西日暮里3-23-9

03-3821-6435

休診日 : 日曜・祝日